

平成26年度 第1回備前市公共交通会議 議事概要

1. 日時：平成26年10月21日（火） 10時00分～12時00分
2. 場所：備前市役所 保健センター3階 研修室
3. 出席者：（敬称略）

（委員）

会長 吉村武司（市長）

※「吉村」市長の吉の字は、外字のため常用漢字を使用しました。正確には、「吉」の字の「土」が「土」となります。

副会長 大東正虎（岡山商科大学経営学部経営学科 準教授）
高橋昌弘（備前市まちづくり部長）
末長章彦（備前市教育委員会）
大本一栄（日生運輸株式会社）
花岡茂明（有限会社 吉永タクシー）（香西委員代理）
藤原真（日生運輸株式会社）
宇治橋委員 昭彦（市自治会連絡協議会）
更谷暢久（市自治会連絡協議会）
三宅陽（市老人クラブ連合会）
寺見史朗（市老人クラブ連合会）
雄島仁（大生汽船株式会社）
西滝道雄（瀬戸内観光汽船株式会社）

（専門員）

平賀哲二（中国運輸局岡山運輸支局）
櫻井康彬（中国運輸局岡山運輸支局）
村上泰三（備前警察署交通課交通係長）
森智子（岡山県県民生活交通課）
清水智彦（岡山県備前県民局東備地域建設課）

（事務局）

まち営業課4名、教育委員会1名

（その他）

調査委託業者2名

4. 欠席者：（敬称略）

（委員）

宇野泰正（宇野自動車株式会社）
藤澤健太郎（市自治会連絡協議会）
上林静男（市自治会連絡協議会）
井上邦允（市老人クラブ連合会）
浄原法生（伊里小学校PTA）
有元みさと（吉永小学校PTA）
石原利信（JR西日本岡山支社）

5. 傍聴人：6名

6. 議事

○開会

○あいさつ

○出席者の紹介

○協議事項

(1) 副会長の選任

(2) 備前市公共交通会議設置要綱の改正について

(3) 路線バス南北線について

・新規ダイヤ・バス停の設置

(4) 片上鉄道沿線地域活性化対策協議会について

○報告事項

・路線バス再編（案）について

○その他

○閉会



◎協議事項

(1) 副会長の選任

《事務局》

副会長は大東委員で異議なし

(2) 備前市公共交通会議設置要綱の改正について

《事務局》

- ・資料【協議事項(2)】に沿って事務局より説明
- ・会議は、陸上交通会議と海上交通会議とし、各会議の委員は、会長が指名し、召集する。現在公共交通会議の委員については、事業者の代表、運転者の代表、住民の代表として地区長・老人クラブ代表、学識経験者、市長任命するもので構成されている。
- ・現在、会議では、陸上交通会議のみに関すること、海上交通会議のみに関することが多いため、この会議を2つに分けて構成しようと考えた。
- ・両者に関係する場合は、両委員に出席いただき会議を開催する。

委員 5条に誤字あり。求めることができる⇒求めることができる。

会長 意見がないようなので、承認していただいたものとする。

(3) 路線バス南北線について

《事務局》

- ・資料【協議事項(3)】に沿って事務局より説明
- ・南北線を新たに設置した図で、9月5日の山陽新聞で掲載されたが、まずこの新路線は旧備前市日生町、吉永町が合併したのちも何も変わっていないので、自家用車がなければ移動が不便な地域で、アンケートや意識調査でも公共交通について不満が多い結果である。今年3月に公共交通計画の改定版が策定され、大まかではあるが将来市の公共交通のありかたが示されたところである。
- ・ダイヤについて、新設された便が1日12便予定している。
- ・バスの運賃は他の路線と同様に大人200円、乗り放題1日は大人500円にしている。
- ・車両については、既存のバスではなく、新たに車両を用意してミニバンタイプの車を用意しようと思っている。環境に配慮して、ハイブリッド車、あるいは電気自動車を考えている。
- ・運行時期だが、車両が整い次第実施したいと考えている。
- ・但し、試行運行ということなので、増便・減便も含めて皆様の意見を聞きながらよりよい路線にしていきたい。
- ・伊里駅にバス停がないので、伊里駅の前にバス停を設置を考えている。
- ・コンパクトな車両を用意するので、乗車人数には限りがあるが、新たな路線を運行し、便数を増やしていきたいと考えている。

会長 事務局から説明があったが、意見はあるか。

大本委員 積み残しが起きる場合はどうするつもりか？

委員 基本的には積み残しがでないようにと考えている。路線によっては積み残しがあると思う。積み残しが出た場合には、次の便を利用してもらうようになる。費用の関係もあるので、コンパクトな車で便数を増やして対応していきたい。

委員 南北線については備前バスが運行委託を受けるのか？

委員 南北線は備前バスが運行する。

委員 新聞報道を受けて、タクシー協会の会合を設けた。公共交通の一翼を担うものとして、タクシー業界だけが置いていかれているようにも思い、会合を開いた。タクシー協会との話し合いはスムーズにしているのか、ということについて確認したい。

事務局 タクシー業者をないがしろにしているつもりはない。会合には私も参加した。公共交通では、各交通手段のできることを、できないことを協力し合って、地域全体の公共交通を検討している。今回は公共交通計画の改定をしたが、南北線については表記されている。まず、改革の一步として挙げさせていただいている。バス路線だけでは対応できないこともある。バスが家の前まで行くことができればいいが、実際にはできない。それができるのは、タクシーである。タクシーは距離によって運賃が決まってくる。山口市ではグループタクシーという手法がとられている。これは、バス停から一定距離が離れたお年寄りに対して、チケットを配布する仕組みであり、こうしたタクシーを活用した手法についても今後は検討していきたい。タクシー事業者をないがしろにしているわけではない。今回は南北線についての会議をさせて頂いているので、次回の会議で議題にしたい。

事務局 新聞報道が先行されたということについて、事前に相談がなかったのではないかとということだと思う。議会の方へ上程するときに記事として報道があった。議会にも議員にも申したのが、この公共交通会議を初めて皆様に承認を得てできるということを伝えた。予算も含めて承認いただいている。

委員 今事務局から説明があったように、新聞を読むと、花岡さんの言うようにタクシー業界の事情を、住民は受け取ってしまっている。タクシーは事業者であり、市民でもある。業者をたたいたりするようになってしまうのは、乗車するお客さんへの笑顔も減ると思う。働くもののモチベーションもさがる。今後は、このようなことがないようにお願いしたい。

事務局 おっしゃるとおりだと思う。今後できるだけ早く公開できるものはしていきたい。バス、JRなどの公共交通機関の専門的なところにも相談しながら、有効に活用していただけるようにしていきたい。

委員 傍聴の皆さんも少しは、すっきりしたかと思う。大変懸念をもっていた。

委員 タクシー協会の中でもかなり話にあがった。計画段階のときに、直接関係する事業者も混ぜて話を進めてほしい。公共交通会議の前に、公共交通委員会を設置して事前に地元や事業者も含めて、みんなで話し合ったうえで、公共交通会議にかかるのが本来の形だと思う。皆でつくっていくのであれば、それが本来の流れだと思うがどうか。

事務局 現在は事前の協議は考えていない。あくまでもスピードが大事だと考えているが、そのことを理解していただけないこともある。皆さんのノウハウをもってやっていくのも、今後検討していく。

専門員 会議の本来のあり方に話していただいている。公共交通会議は、事前に決めていくのではなくて、この会議で細かいことも決めていくのが本来である。具体的なことを決めていくには、事前に関係団体とすりあわせも必要だと思う。

委員 それぞれの関係することなどあると思うが、事前に情報交換（すり合わせ）がなされていなかったということではどうか。

事務局 まったく協議していなかったということではない。これまでに関係機関を含め、

専門知識を持っている方と相談したうえでやっている。備前市が単独でやってきたという話ではない。

委員 この会議をもってあがるときは、事前のすり合わせがきちんとできていたということでもよろしいか。

事務局 平賀さんの趣旨としては、公共交通会議の趣旨としてしっかりこの公共交通会議の中で議論していくということである。

委員 ここの会議でしっかり議論したうえでのちに摩擦をなくしていくということでもよいか。

専門員 次回の会議では、こういうことをやりますという内容を事前に送付してもらえれば、よりよい中身の会議になると思う。

委員 南北線についてはHPなどで告知しているということで、受け取るがそれでよろしいか。

事務局 南北線については、計画書の改訂を含めて、議員さんの方にも提出して示していると思う。

専門員 わたしたちは南北線について、事前のすり合わせが全くなかった。吉永地域での意見交換会が行われ、積算表まで提出した。それが立ち消えしたと思っていたら、新聞報道で南北線のことを知った。このように認識しているが、この点についてはどうなのか。

事務局 意見交換会については把握している。デマンド運行についても検討したが、他地区の状況などを聞くと、デマンドは経費がかさむという懸念があり、バスの小型化ということで利用図る。バスを利用しないから便数が減る、便数が減るから利用が減るという悪循環ではなくて、便数を増やす。備前市はJRの山陽本線と赤穂線があるが、それを結ぶものがない。それから、住民一体という部分も考えていけないといけない。あくまでも、南北線は試行である。税金を投入するため失敗もゆるされないが、皆さんのニーズに合うのか合わないのか、私どもの思いもある。心配されているように、連絡がないということだが、時間がない中だったのでご理解して頂ければと思う。

委員 その点は期待しているので、よろしく願います。売上が減るから反対といったような意見を言う気はない。まちづくりの観点からも必要にもなってくる。できる限りのご協力はしたい。ただし、我々も事業としてなりたたなくなるようであれば、本当の意味での交通弱者の方に心配をかけることになる。タクシークーポンやのりあいタクシーなど内々にお話をいただいている。和井谷線をどうするのかですとか、そういった話も含めて早急に進めていただきたい。運行してしまえば、沿線のタクシー事業者にも影響が出てくる。全体的な見直しがあれば、当然市外のタクシー事業者にも影響が出てくる。そのあたりの配慮をお願いしたい。

委員 ひとつ提案させてください。部署だけでは前にいくことに一生懸命になれば、周囲への配慮が難しいと思う。きちんと人員を投入し、部署に一人だけにはならないように、きちんと人員を配置しスタートすればいいと思う。

事務局 今回、小型にシフトしたのは経費のこともあるが、タクシー事業者さんにご協力をお願いすることも含めて検討していた。また、グループタクシーもタクシー事業者さんの協力ができない。先ほど指摘があったが、協議会が開かれる最低でも1週間前に資料を送り事前に見ていただくようには改善したい。

委員 内々の話で申し訳ないが、枝線をタクシー事業者に委託するという話があった。

静谷学校を経由するという話があり、そこまでバスを使う人も増えると思う。タクシーで往復した場合、3000円になる。今タクシー業界の売上も右肩下がりであり、20年前の約半分である。11月は紅葉でシーズンが多いが、平均で1日に1.7組の程度が静谷学校に行かれる。路線バスが増え、地元の方が利用されればマイナスしていかないといけない。今日は、1組乗ってくれた、2組乗ってくれたという状態で営業している。和井谷での支線を検討しているということだが、運行したらたちまち影響が出てくると思う。グループタクシーや和井田に乗り合いタクシーについて検討しているということであったが、時系列でいつから運航するとか聞いて帰りたい。

事務局 後の報告事項のときに説明する。

委員 支部会で出た意見があるので委員の方に質問がある。備前バスに委託する経緯をご存じの委員の方がいらっしゃれば教えてほしい。なぜ備前バスなのか。

事務局 現状で、すでに吉永の方から、片上へ運行を行っており営業権をもっている。少しでも早くという点で、備前バスに委託した。緊急性もあるので、備前バスにお願いした。

委員 いまの質問については、委員が知っていることではないため取り下げ願いたい。

委員 委員への質問については、取り下げる。すみません。

委員 エスティマの定員8人ということは、お客さんは7人ということか？

事務局 実際のお客さんとして6人である。

専門員 定員6人ということについて、各便どの程度の需要を見込んでいるのか。先ほど、乗車できない場合は次便に乗車してもらうということであったが、乗合交通ということ踏まえると、積み残しありきで運行することは、道路運送法上も許可をするのに問題がある。

事務局 事務局としてはお昼の時間帯等含めて6人で大丈夫だと思い検討した。

会長 ほかにご意見がなければ、南北線の試行について承認いただいてよろしいか。
(よろしい)

(4) 片上鉄道沿線地域活性化対策協議会について

《事務局》

- ・この協議会は平成3年片上鉄道が廃止となり、かわりのバスを走らせてほしいという地元の要望で運行している。平成10年から沿線の市町と赤字額を補助し運行を維持してきた。平成23年に美咲町バスの運行助成事業から退き、現在は和気町、赤磐市、備前市の3市町でバスの運行に関わる赤字を負担している。バスの利用者が自動車の普及、少子高齢化によって激減している。年15~20%減少している状態である。平成14年で101,687人利用があった、平成24年度は18,495人の利用だった。備前市の赤字に伴う負担金は、平成25年度で520万円、平成26年度415万円の負担があり、備前市から乗られている人は現在2名だけの利用となっている。現在市内の公共交通の路線網の改革も考えていることから、このバスの運行については見直しの意向も表明している。このことは沿線協議会ででも了承され、明日、沿線協議会の総会が開催されるが、正式に見直される意向である。よって公共交通会議でも、その旨の協議了承をお願いしたい。

専門員 片鉄線の見直しということだが、見直し後、備前市としてはどのような内容を検討しているか？

- 事務局 今回この南北線の検討に併せて、直行便も検討している。吉永駅から片上の方に行く便を検討している。よって片上沿線で使っていた人が利用できるような、片上から吉永から JR を使って和気に行ってもらいたい。接続はあるが料金的には安くなると考えている。
- 委員 先ほど、備前市の負担金が 400 万円ということだった。それで 2 人ということだと、我々も仕方がないかなということになる。先ほどの質問にあったような、代替案があるということも含めて説明いただかないと検討ができない。もう少し、きちんとした説明を求める。
- 事務局 大変もうわけありません。説明不足のこともあり、おっしゃるとりである。今後は気をつけたい。
- 委員 本当に片鉄線に乗る人は 2 名しかいないのか。
- 委員 確実に利用する人は 2 名おり、日によって多少前後することもある。全く 2 名ということではない。
- 事務局 備前から乗る人が 2 名ということであり、弱者救済のための公共交通として金額だけでは言いきれない。
- 委員 収入としては、2 名分しかバス事業者の収入として入っていないのか。
- 事務局 全体の経費で利用者の収入を踏まえ、努力をしても赤字になる部分を補助している。全体で 1000 万近くありそれには負担割合があり、備前市では約 400 万あるということである。和気町は距離長いので 700、800 万かかってしまっている。こちらとしても、2 名だけだからというわけではなく、全体から考えてバスについては、頑張っていくので考えさせてほしいということである。あくまで、昔での片鉄沿線の協議会を残して、サイクリングロード等あるのでそういったものを利用して活性化していきたい。1 市 1 町で頑張っていこうと考えているので、承認いただきたい。
- 会長 ほかにご意見がなければ、承認ということにする。

◎報告事項

- ・路線バス再編（案）について

《事務局》

- ・資料 P. 10 が既存の路線と新しい路線を加えた図である。こちらはあくまでも案であり、南北線、東西線、日生線こちらの 3 つを基幹路線とし、既存の支線も増便を含めたダイヤ改正、新規路線の運行など、公共交通の充実を図っていかたいと考えている。路線がない地区についても、グループタクシーの利用券を発行して、公共交通空白地域の方へのサービス向上につとめていきたいと考えている。まだ確定はできていないが、70 歳以上の方で JR から 1Km 以上離れている方を対象として、発行するという仕組みを考えている。
- ・幹線を充実させたのちに、支線を充実させていきたいと考えている。
- ・本日話し合いをして、来年早々に第 2 回の公共交通会議でも協議していきたいと考えている。順次、実行可能な路線について協議しながら進めていきたい。
- ・グループタクシーについて補足説明する。タクシーを一人で利用すると高くなるので、年間に 50 枚補助券として出し、1000 円かかるとすると 300 円の券を出せば残り、700 円現金をタクシー会社の方へ払えばいい。もし 3 人で乗り合い 1 人 1 枚利用すれば、900 円になるので、支払いが 100 円で済む、そういったものを今後検討していきたい。

- ・来年の4月からグループタクシーを運行したいと考えている。議員さんの承認も頂けないといけないし、公共交通会議の賛同を頂かなければならない。タクシー事業者の方が主旨に賛同いただき、協力して頂かなければならない。インフラ整備を含めた協議を進めていかないといけない。
- ・基幹路線はできるだけ早く整備したいと考えている。来年4月からすぐにでも行いたい、広報等あるので来年度途中には行いたい。それ以外のところには順次皆様と協議を図りながらできるだけ早く、まず試行運転を開始したい。試行から本路線に変わるようにしていきたい。路線利用率が上がるような路線にしていきたい。
- ・担当一人では厳しいという意見もある。その点は本日市長も出席しているので、考慮する。費用的な面もあり、備前市の重要施策でもある。皆さんと協力し助言を頂きながら、進めていきたい。
- ・先ほど質問があったように、時系列で説明してほしいということだが、今はこういった形でしか説明できない。それで了承いただけるか。

委員 正直、死活問題である。明日明後日がかっている問題である。早急に決めていただくということの約束をしてほしい。

事務局 グループタクシーは、4月からやっていきたいと考えている。具体的な費用についても考えてやっている。ただ、議会の承認も必ず必要になるので伸びる可能性もあるので理解を頂きたい。

委員 業界を活性化させるために、これは有益な手法ということも考えてほしい。タクシーがなくなるとは困る。仕事に情熱を燃やして、笑顔で接客し、タクシー業界の人ががんばってもらえるような支援をしてほしい。

会長 会長であるが、市長という立場でもあるため、今回の路線バスについて説明させて頂く。備前市は2040年に統計上では、20～39歳までの女性の方が6割強減る予測がある。毎年500名強の人口が減ってきている。前年は700名強の方の人口が減っている、外国人登録者が500名入ってきているので、実際には合併9年で約4500人の人口が減少している。これを踏まえると、高齢者の利便性の確保しなければ、2024年には、団塊の第一世代が後期高齢者になる。全国でこの問題になっている。この中で、備前市としても公共交通についてきちんと考えていなければならない。

2つ目は若い世代の定住・移住である。残念ながら、社会減が続いている。創生会議のレポートにもあるが、岡山県で最も20～39歳の女性が減る高梁市は、昨年社会増になっている。岡山県で備前市はもっとも社会的な変化が激しくなるだろうとビックデータからみられる。合併の恩恵が得られるのは今年度までで来年度から、交付税が減額される。5年経てば現在の交付税からおよそ年額11～12億の金額が減る。財政基盤をしっかりとさせるためにも、積み立てた資金を簡単に使うわけにはいかない、5年でおよそ30～33億の交付税が減るという中である。今年度以降公共交通に関する費用がこのような施策をすると、半端な額ではなくなる。

想像してみてほしい。70歳以上の方で1km以上バス停から離れた方に50枚タクシークーポン券を出すと、どれだけの費用がいるかということ。私は今のタクシーの台数ではたらないと思う。こういった施策は両者が云々ということよりも、まず財政上新しい政策になるので大変である。この状況でいくと5年間で大変な

少子高齢化になる。今年度産まれた赤ちゃんも、この9月ヵ月の間に100人を割っている状況である。市長になり備前市をなんとか元気にしたい、若い人が移住してくる、高齢者が住みやすいまちとする施策と財政負担の狭間で、こうした施策が実施されれば、岡山県内でも公共交通が最も豊かで市民の負担が低料金な仕組みとなる。オール備前で合併し来年で10年になるが、人口減少、移住者の増加、高齢化対策を考える上で、これは大きな政策としてご理解いただきたいと思う。備前市の将来を決めることになる、岡山県内でこれだけの公共交通網を企画しているという話は他にない。岡山県の東の玄関口であるが、岡山市が政令都市になり、岡山市を中心に変わろうとしている。備前市から公共交通の利便性を考えて、他都市へ移住する方も増えてきている。山陽本線と赤穂線のJRの大動脈を持っている。戦後これだけ大きな公共交通計画を持った政策を皆様方の協力でやっていきたいと思っている。公共交通会議の中で決まってくる。是非とも備前市が合併して良かったと思うように、市政の柱にしていこうと思っている。委員の皆様にも是非とも財政上の負担も含めて、将来の備前市をつくる基になると思う。すべて税金をあててやるということなので理解を賜りたい。委員の方々には個別に路線バスなどについて説明するようになると思うが協力いただき、備前市の衰退をなくしていきたい。政策がいか財政上インパクトを与えることを理解いただきたい。

- 委員
事務局 来年から橋がかかるが、このバスについてはどうなるのか。
今回、4月から本土と鹿久居島のルートができる。今回、公共交通会議を陸上と海上にわけた。船の事業者の方ではバスが運行すると経営が厳しいという話もある。また、頭島に住んでいる方にアンケートをとっても、乗りなれた船がいいという意見が多い。最低でも1年現状のままやっていこうと思うが、小学校等なくなった場合のスクールバス等になれば今後検討していきたい。
- 委員 今のお考えは、それでいいと思う。バスを走らせても乗る人がいないかもしれない。200円で備前までいけるといっているのであれば、また少し考えも変わってくると思う。
- 専門員 国では交通施策の基本理念を謳った交通政策基本法が施行された。これを受けて、この9月には地域公共交通活性化再生法も改正された。今回の議題である南北線だが、これが今年の3月に改訂された御市の公共交通の計画の中にある取り組みということであった。先ほど議事の中であった再編案は、これをペーパーだけではなくて、せっかく交通計画つくっておられるので、これに反映するようにしていただく方がよい。国としてもまずは地域が合意をして市全体の交通ネットワーク考えて、それを形にするための取り組みについて支援をできる仕組みとしている。交通ネットワーク計画の策定も合わせてお考えいただきたい。
- 会長 市長としても公設・民営の考え方を中心に据えて公共交通を大事なものにしていけないとまちづくりの根本がだめになると考えている。かといって備前市の財政負担も限られている。是非とも岡山県でも最初に行うこととして、その際のリスクや市民に対するサービスについて、専門委員の皆様方にご指導頂かなければならない。
- 専門員 再編案については、まだ確定ではないということで、見直しはあり得ると考えている。南北線についてもタクシー事業者さんとのコンセンサスがとれていないように受ける。今回予定されている再編案も同様に、隣接する市町やタクシー事業

者、その他のバス事業者等への影響がでてくるものとする。市長の公共交通を充実させたいという思いは伝わってくるのだが、それだけでは既存の交通が破たんしてしまうことには問題がある。きちんとコンセンサスをとって進めていただきたい。

事務局 指摘があったように、しっかりとコンセンサスをとるように取り組んでいきたい。バス再編の案は来年の会議では、そういった点も検討したいと考えているため、またその際には御助言いただきたいと思う。

事務局 圏域バスの利用者数が、平成 25 年に比べて 26 年の方が若干増えている。本年岡山市内で開店する大型ショッピングセンターによる主要道路の渋滞緩和や地球温暖化防止のためにも、自家用車の利用を極力少なくして公共交通の利用をお願いしたい。

圏域バスは、赤穂市、上郡町、備前市の 3 つが協力し合って運行している。吉永駅から赤穂のジャスコへ行く路線である。

委員 全体的に会議の資料が不親切である。もう少し関連する資料の準備をお願いしたい。

事務局 わかりました。

専門員 報告のところで南北線も含めて何年度に行うのか。

事務局 南北線は平成 26 年度中に車両の準備が整い次第、試行運行を開始する予定である。

専門員 わかりました。

会長 他に意見がなければ、会議を終了する。

今後とも市民の利便性・簡易性を考えた交通、まちづくりを考えて皆様方の意見を賜り、いっそう備前市の発展につなげる様、財政負担のことも含めて意見を賜りたい。

了